◎母校々歌レコードと映畫ヒルム

●母校々歌レコード。

一、歌詞「曉星淡く瞬きて……」。
一、コロムビヤ製電氣吹込。
一、A面同窓會員合唱校歌五節、B面長崎高商行進曲。
一、一枚賣價金一圓三十錢、送料及荷造費共一枚分二十五錢。（滿、鮮中華民國、臺灣六十錢）

右販賣す、直接本會に御申込を乞ふ。

●映畫ヒルム貸付

一、第一卷、昭和三年十月二十八日撮影成隣會館地鎭祭光景及本會慰靈塔除幕式光景、全卷八百呎。
一、第二卷、昭和五年五月十八日撮影成隣會館開館式光景及母校全景、全卷六百六十八呎。
一、右二卷共標準ヒルム（三十五粍）。

右御希望の支部に貸付す、但し映寫機械と取扱技師は支部側にて斡旋すること。

昭和七年十月

長崎高商同窓會

振替（福岡）三二一〇番

◎母校歌レコード作成經過に就て

○

母校々歌「曉星淡く……」は故柴崎校長時代に成りしもので、豫てよりレコード作成の希望が同窓生間に在つたが其實現の機會が無かつた。ところが東京に全國高商陸上競技聯盟の第一回大會が此夏に開かれるといふことになり、東京商大から校歌レコードを求めて來た、そして君し無かつたら樂譜を送れば作成してくれるといふやうな話で、丁度良い折であるから、在京瓜生幹事が商大側に交渉してくれた、然るに其間色んな事情があつて面白く行かず、一層のこと同窓會單獨で作成しやうといふことになり、最初ポリドール社製といふことでしたが都合によつて變更し日蓄に第十五回の植木兵三君が居られて大に斡旋してくれ、瓜生君の交渉がどん〳〵進捗し、遂に六月三十日に愈々吹込決行の段取となり、樂譜の改作、編曲から萬事兩君の非常な御盡力で話が纏り準備出來上つた。同日四時より二時間に亘りて吹込を了し、原版は東京と長崎とでテストし、茲に會員諸君に提供するに至つたものである、A面吹込は日蓄の仁木他喜藏氏指揮の下に同窓會員猪股敬君（19）、樋口謙三君（20）、西村伍一君（21）、原隆吉君（21）、末次平八君（22）、藤島正夫君（25）、の六君と日蓄合唱團長吉田永靖氏外數名の合唱にしてB面は矢張り仁木他氏指揮、新交響樂團長宮田清藏氏外九名の吹込奏樂の長崎高商行進曲といふのである。

○

茲に瓜生君通信の一部を掲げる。

（前略）新交響樂團は現在本邦最高權威にして今回の出演者は十名共第一人者揃なる事及吹込に際して仁木他氏以下誠に熱誠込めて終始したる事（小生は特に吹込室に入れて貰ひ最後迄つき切り居候）は小生の最も感激したるところに御座候、一回吹込めば直に機械室より原版を吹奏し惡い所を協議訂正の上再び演奏密閉室にて之を繰り返すこと二時間、滿足出來るもの表裏各々二枚を製作致候、指揮者も樂士も汗だくにて死者狂ひに御座候、緊張と云ふよりもむしろ壯嚴味を感じ申候、あとは唯神頼み、之で良いものが出來ねば致方なしと存じ候、但し何とかして滿足のもの出來てくれるやう唯神に祈り度心地致候、四日、月曜日にレコード試作、試聽會開催小生も參列の筈に相成居り、夫迄校長在京せらるれば御參列願度存じ居候、甲乙二枚の原版の何れかに決定の上本式に製作の段取と相成る次第に候、大体豫定通り出來の心組に候

（後略）（昭和七年七月一日附）

—（幹事高畑）—

◎母校近況

◎滿鮮旅行團　長畑教授（七月七日附）伏見教授（七月九日附）滿洲出張を命せられ學生旅行團を率ゐ七月九日より八月九日迄彼地旅行。九月三十日、兩教授の報告講演ありたり。

◎飯田教授　四月以來內地研究員として東上中の同教授は第二學期より授業開始。

◎堀部教授　滯英中の同教授は最近渡獨せられたり、通信宛先は伯林日本大使館氣付。

◎豫科第一學年入學試驗　九月十六、七日長崎と天津とにて施行、特設豫科は中滿留學生の爲めに特設したるもの。

◎淺野教授渡滿　九月二十一日出發渡滿せらる。

◎公民教育講座　文部省主催十月十二日より四日間母校に開催

◎第一學期試驗　九月二十八日開始、十月六日終了。

◎運動部近況　○野球部　十月十三日春日原球場、對全福岡戰、五對零勝、次で全國高專西部聯選參加、第一回戰不戰一勝、第二回戰對西南學院十二對六勝、第三回戰對長崎醫專十三對零勝、準決勝戰、對佐高四A對三勝、優勝戰（七月二十一日）對松山高商戰一對零勝、五度西部の覇を握る。甲子園第九回全國高專決勝大會に出場、七月二十四日、法政十二A對桐生高工二、立命大學豫科對長崎高商戰三對一敗る、二十五日立命六對法政一、立命優勝す。○蹴球部　七月一日よ